

2026年5月期 第1四半期決算説明資料

株式会社アイデミー

証券コード：5577

2025年10月



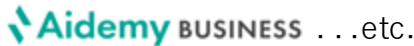
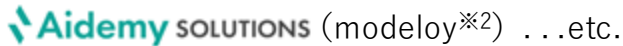
エグゼクティブサマリ

M&Aによる売上の連結取り込み効果もあり売上高は前期比13百万円増加。営業利益は投資を継続しながらも効果の悪い広告宣伝の取りやめや社内の生産性改善等の効果で前期比62百万円改善し黒字を確保。一方でTOB関連費用の費用認識により当期純損失は100百万円となった。

2026年5月期
第1四半期業績
(連結/累計)

売上高	540百万円	前期比 +13百万円
EBITDA※1	56百万円	前期比 +41百万円
営業利益	34百万円	前期比 +62百万円
当期純損失	▲100百万円	前期比 ▲66百万円

サービス別
売上高

①AI/DXリスティング事業	②AI/DXプロダクト事業	③AI/DXソリューション事業
	 ...etc.	 (modeloy※2) ...etc.
43百万円	289百万円	207百万円

※：EBITDA＝営業利益＋償却費＋のれん償却費＋株式関連取得費用(仲介費用等)

※：2025年6月1日付で新ブランドを導入しておりますがご説明の便宜上、旧ブランド名での記載を行っております。現在の情報については、当社Webサイト等に掲載されております。

通期業績予想に対する進捗状況（連結）
計画に対して順調に進捗中である。

	2026年5月期 業績予想	26年5月期1Q	進捗率
	金額	金額	比率または金額
(単位：百万円 / 連結)			
売上高	1,950	541	27.7%
営業利益	▲315	34	+349
経常利益	▲320	34	+354
当期純損失※	▲340	▲100	+240

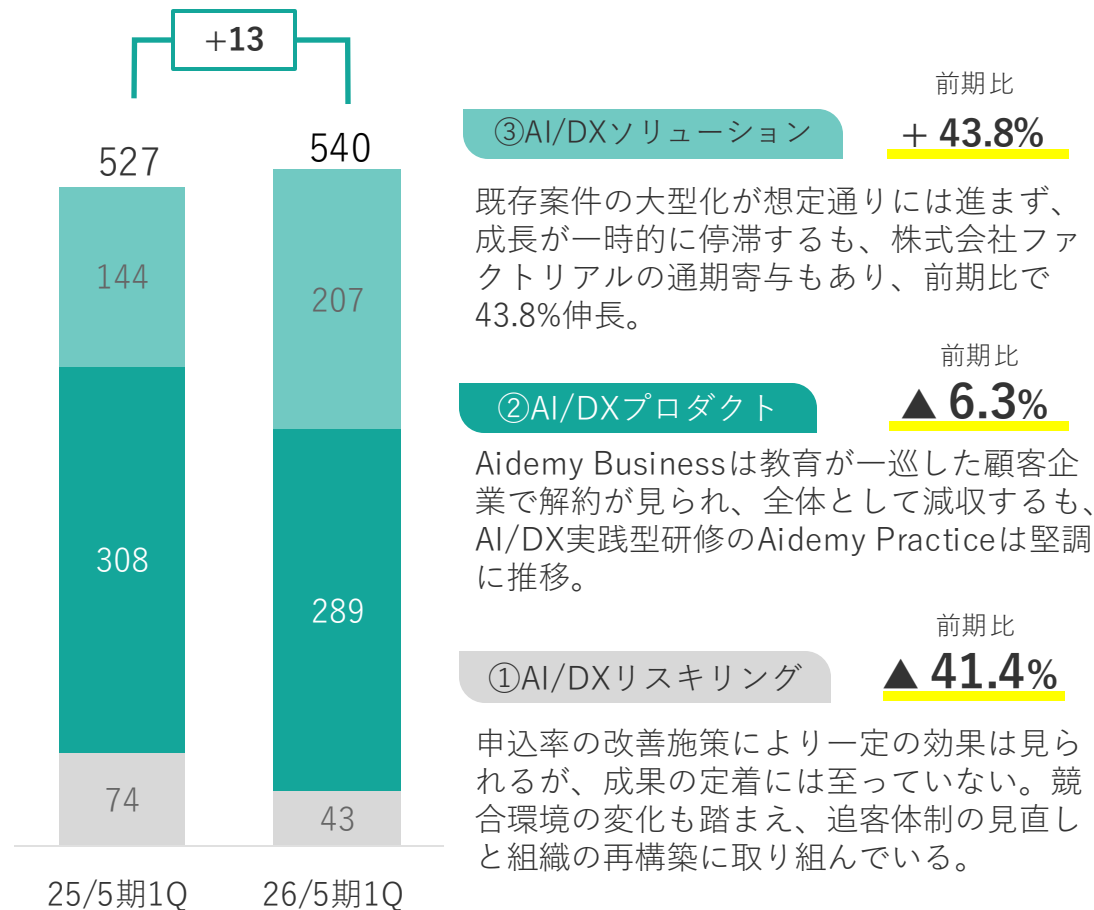


2026年5月期 第1四半期決算概要

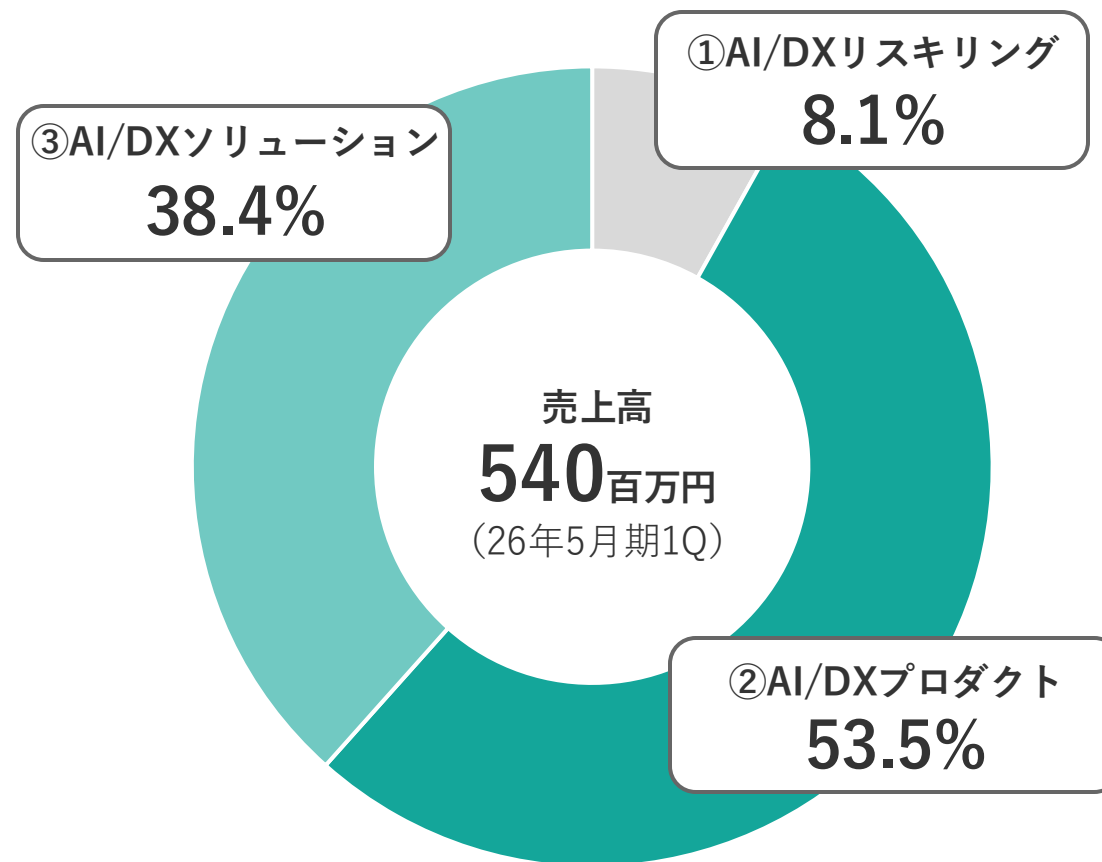
AI/DXリスキリング・プロダクト事業は前期比を下回ったものの、今後の注力事業であるAI/DXソリューションはM&Aの増収効果もあり43.8%の増収。

(単位：百万円)

サービス別売上高推移



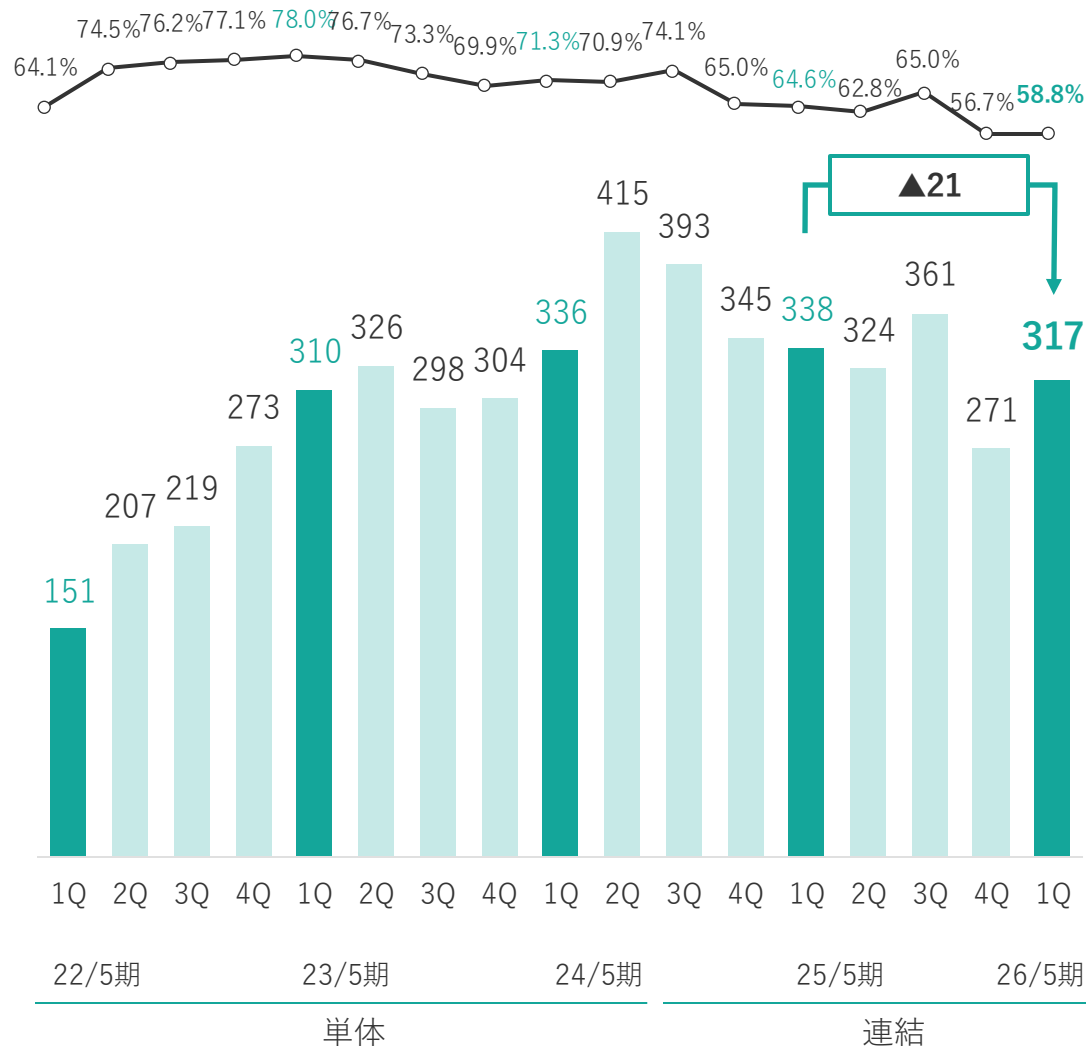
サービス別売上構成比



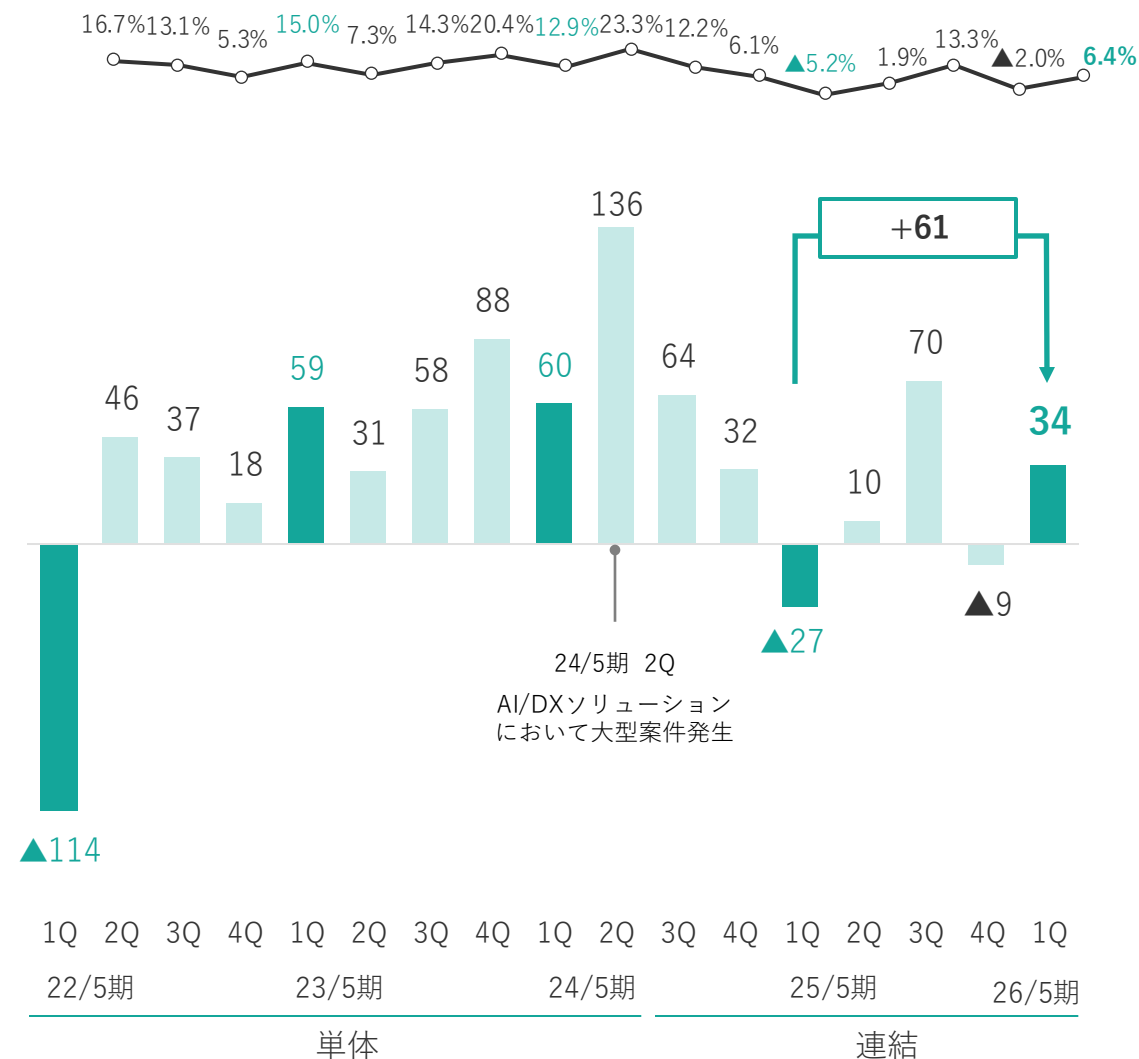
売上総利益は既存案件の進捗影響により前期比21百万円減少した一方、営業利益はコスト抑制効果などもあり前期の赤字から黒字に転換し、61百万円改善した。

(単位：百万円)

売上総利益・売上総利益率 推移

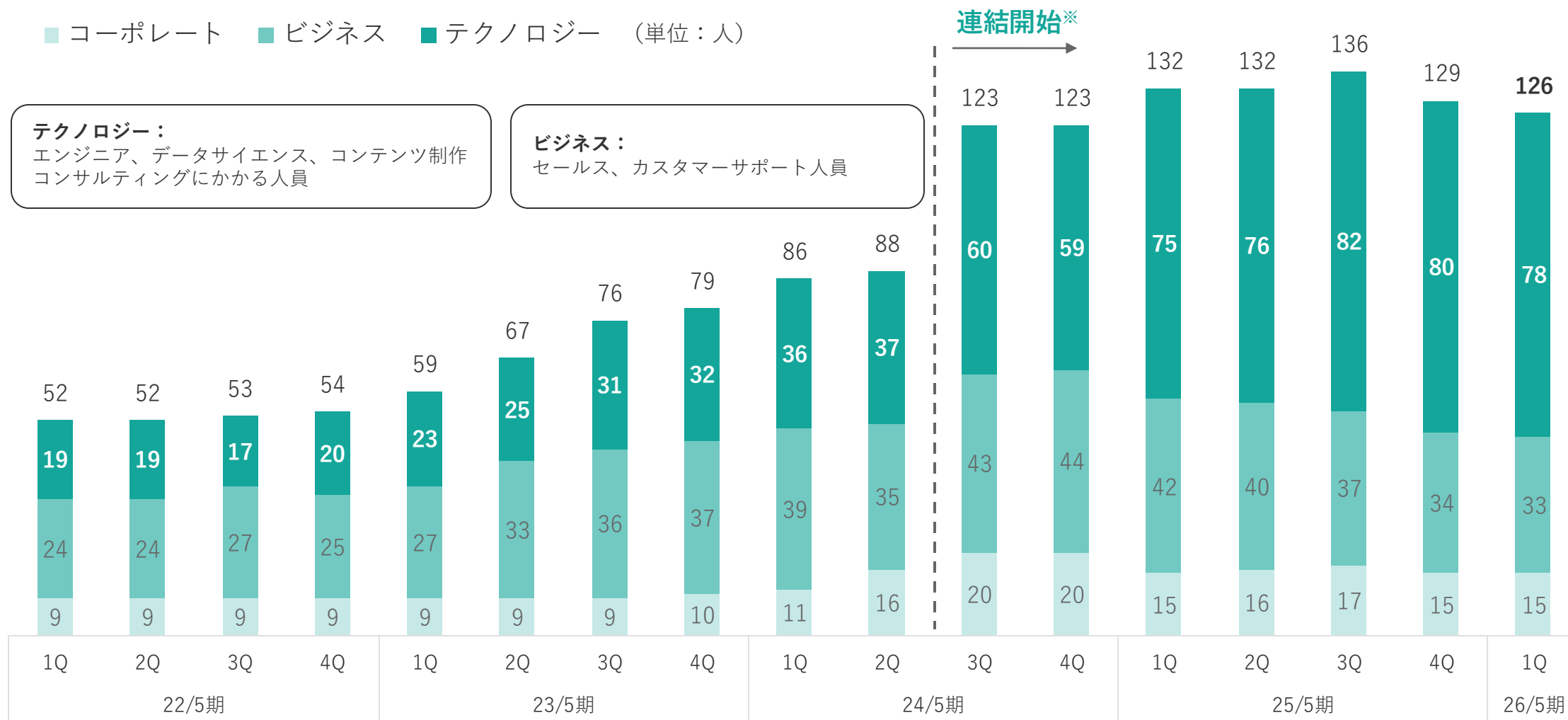


営業利益・営業利益率 推移



従業員（正社員）数の推移

人員構成の最適化とテクノロジー人材の維持、事業フェーズに応じた体制見直しを実施しつつ、受注対応力を支える中核人材を確保。



※：24/5期 3Qからファクトリアルなテクノロジー、ビジネス、コーポレートの人員を合算

※：25/5期 1Qからまぼろしのテクノロジー人員を合算、25/5期 3Qからトゥーアールのテクノロジー人員を合算



投資家の皆様へ

アクセントグループに加わることへの意義

これまで培ってきたアイデミーの強みとアクセントの豊富なリソースが重なり合うことで相乗的な新たな挑戦のフィールドが広がります。

アイデミーの強み

日本のグローバル企業を対象としたAI/DX×教育・実装支援

+

アクセントの強み

グローバルで約80万人の仲間・世界的ネットワーク



これまでの挑戦の積み重ねを土台に、より大きな価値を生み出す。

顧客基盤の拡大：幅広い業界・企業へのアクセスを通じて、サービス展開の機会拡充
リソースの充実：世界の知見やフレームワークを活用し、より高度なソリューションを提供
事業領域の拡張：教育・リスキリングに加え、開発・実装支援をさらに強化
ブランドの信頼性：アクセントのネットワークと信頼を背景に、社会的インパクトを高める
人材育成の深化：多様な人材・専門家との協働を通じて、社員自身の成長機会も拡大



当社は公開買付け（TOB）が成立し、2025年10月6日よりアクセンチュア株式会社の子会社となりました。2025年11月6日に上場廃止予定となり、決算説明資料は今回の開示で最後となります。

上場以来、多くの投資家の皆さまから温かいご支援と建設的なご意見を賜り、今日のアイデミーの成長に繋がりました。振り返れば、挑戦の連続でありましたが、そのたびにご理解とご期待をいただいたことが、私たちの大きな力となりました。

今後はアクセンチュアグループの一員として、これまでのあゆみを礎にAI/DX・リスキリング並びにAIシステム開発の領域で新たな挑戦と社会への提供価値を拡大してまいります。

世阿弥のことば「時々の初心忘れべからず」は代表取締役石川の座右の銘です。「常に初心である」という想いのまま、これからも挑戦を続けてまいります。どこかでまたお会いできることを楽しみにしています！

A stylized, handwritten signature in black ink, likely belonging to the representative director, Ishikawa.

- 本プレゼンテーション資料は、株式会社アイデミー（以下「当社」といいます。）の関連情報等のご案内のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報または意見は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としていますが、その真実性、正確性または完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本プレゼンテーション資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害についても、当社または当社のアドバイザーは一切の責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、何人も、その他の目的で公開または利用することはできません。
- 将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、予想、目標に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来予想に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 本プレゼンテーション資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報および第三者の作成に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。